新聞畫會 第廿八号
明治八年三月十八日
越前と近江の境なる
杉の木峠の禁屋にて
二人の死骸あり是ハ
雪頽れて死せし
其人ハ越中の國
高岡阪下町の
富家村田
藤左衛門夫婦にて
大坂よりの帰路
かゝる災ひに逢ひ
とぞ
此雪なだれハ
山の雪春の陽
氣にて山の肌と
雪と離れ切たる
時なだれかゝれ
バ忽ち落るゝ
其雪大盤石
の如くにして
ものゝ者必ず
助かるを得すと
北陸旅行の人ハ
用心あるべし
東京日々
九百七十三号 抜粋
九代
化略記附傳
彫工 小原若枝